

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	田園風景の中、四季折々の景色や、夕日を眺めながら、畑作業をする。癒しにヤギを放牧し、運営理念の[介護から快護]を目指し、ストレスの無い日常生活を送れることに取り組んでいます。		スタッフ全員に運営方針の理解と浸透を図る目的で理念を見やすい場所に掲示している。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝の申し送りの時に日常的に話し、共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム運営理念や役割が地域に理解されるよう、家族会・運営推進委員会や地域に対する運営理念の啓発、広報に取り組んでいる。		ホームの説明会 近隣の老人会 こすもだより・中学生職場体験・小学生の受け入れ・短大生実習受け入れ・夏祭り・家族会等を公開している。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域交流を大切にしているので、地域の方々が遊びに来たり、野菜をいただいたり、孫を連れてヤギを見に来たり、朝のゲートボール見学等、気軽に交流を行っている。		ボランティアの受け入れをさらに活発にしたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区長さんと話しあい、お互いに行事等の交流をお願いし、介護教室や敬老会等、地域活動に積極的に参加し、地元の人々と交流を密に図っている。		ホームの夏祭りをもっと発展させ、町内の夏祭りとして開催できるようにしたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の老人会が行っている公民館でのデイサービス等で介護保険の説明や健康体操を指導している。		校区全老人会に範囲を広めたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の結果に基づいて、日々のケアを上げる目的でスタッフに浸透するよう、スタッフ会議や、研修会を通じて随時改善している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や意見を大切に、介護保険の勉強会を行っている。理解のできない事項は、次回の会議の議題に取り上げ検討している。		2ヶ月毎に開催し、報告、情報交換、話し合いを通じて、率直な意見をもらい、サービス向上に努めている。当該利用者がいなくなっても介護保険の勉強会をしている家族もいる。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1度まごころ相談員を派遣してもらっている。また、地域包括センターの紹介の入居者の状況説明を含め、報告等のため随時市役所に出向いている。		今後認知症やスタッフの勉強会を市と連携してやっていきたい。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な利用者には市と話し合い、成年後見制度を活用している。		今後も利用者の必要に応じて活用していきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議で学び、スタッフ同士疑問点はその都度責任者に報告して、指示を仰いでいる。		虐待という言葉は、ホームでは絶対に使わない。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族には契約書や重要事項説明を開いて説明し、理解・納得してもらっている。利用者には口頭で説明をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の派遣社員や家族が気軽に訪問できるよう支援し、入居者が、いつでも第三者と会 話できる環境を提供している。		2ヶ月毎の運営推進会議を開催している。 3ヶ月に毎家族会を開催中
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる	毎月、こすもだよりという会報を発行する ことで生活情報を報告し、金銭管理は入金 時のサイン等随時個々に合わせた報告法で 行っている。		家族来所時声かけ、入居者の状況について 話し合っている。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口や玄関にはポスターや市の苦情窓 口の電話番号等を掲載している。		3ヶ月毎の家族会を開催している。
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	職員が提案した事柄は意見が違ったとし ても、まず責任者で検討してスタッフ会議で 取り入れることが妥当であると判断した場 合誰の意見であっても尊重する体制をとっ ている。		月二回、スタッフ会議開催。 意見交換、勉強会をしている。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	バイトや短時間勤務者を確保し柔軟に対応 している。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃より運営者はじめ職員が馴染みの関係 を築いている。又利用者毎に担当者を決め 1人の利用者に2人の担当を付けること でたとえ離職者が出て利用者のダメージは 最小限にする体制をとっている。		職員が変わるときは、利用者のなじみの職 員がスムーズに移行できるよう目配りと配 慮をしている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	あらゆる活動において、全ての基本的人権を尊重し、差別、偏見をなくすと共に、職員の多様な個性を尊重し、能力を十分に発揮できる職場環境作りに努めている。		誰もが安心して働ける職場作りをしている。
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年上を敬い、言葉使いに気をつけて誰に対しても同じスタンスで接するよう努めている。		基本的人権を尊重した、人材育成に努めている。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	G・H協会や市の勉強会等研修会の参加を積極的に取り入れて職員のスキルのレベルアップに努めている。	○	研修に参加し、研修内容を報告し、全職員が共有できるよう勉強会をしている。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リーダー研修会は毎年参加、新人研修、その他研修を通し、地域同業者との意見交換をし顔馴染みの関係を築かせ、自己啓発に努めている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互の親睦会の機会を作ったり、3時の休み時間を利用しスタッフ全員でのお茶のみ座談会を楽しんでもらっている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断を年二回実施し、心身の健康を保つようにしている。役割分担を決め責任ある行動をする、職員の努力に対する成果を把握している。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の問題行動の原因が何であるのか観察しながら、本人の話の内容で繰り返し話すことの中より推察する努力を行っている。		声かけ、見守りをし早く安心してもらうように努めている。 センター方式活用
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所に至るまでの本人の生活歴や、家族との関係を聴き、本人に何が必要なのか受け止めそれぞれの思いを把握する努力をしている。		家族の状況を把握することによって、情報交換を繰り返し、信頼関係を作っている。 センター方式活用
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括センターや居宅のケアマネを通しての相談が多いので他のサービスの検討は殆どの場合済んでいる。しかし、どう見ても他のサービスが向いていると判断する場合は再度ケアマネと打ち合わせをしている。		本人、家族の実情や要望をもとに、サービス調整を行い、出来ることは速やかに実行している。 センター方式活用
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症ディサービスができれば問題はないが、体験入所ができないため本人と家族が十分話し合いしたのを確認して、家族との頻度の面会をお願いしている。		最初の1ヶ月は管理者や責任者が主に対応している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	これまでの生活歴を把握し、本人の思い出に共感し、理解する関係を築き人生の中で楽しかった思い出を引き出し、共に喜ぶ努力をしている。 センター方式活用		スタッフ全員もお年寄りが生きてきた時代慣習の勉強会をする。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と密に情報交換を行って本人の状況を知らせ家族も一緒に介護を考え、支えていく環境を整えている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	夏祭り等の催し物に積極的に家族の参加を頂いており、家族が関わる場面や機会作りをしている。本人が穏やかになり、安心した生活を提供することにより、関係を深めている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人友人が面会に来られた場合は次回の訪問を促している。また、ホーム事業に参加してもらい、本人を支えてきた人たちとの関係を保っている。 センター方式活用		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	椅子の配置やタタミの配置を考え、入居者同士の関係が和やかになるよう工夫し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わりあい、仲間作りを演出し、安心した会話ができることで不安を無くす工夫をしている。		各入居者の得意分野で力を発揮してもらい、お互い様という気持ちをレクリエーションの中に取り込んで支援している。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続できる退所者の家族とは他のホームにボランティアに行ったり、当ホームの運営推進会議に参加してもらっている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけ、見守り介護にそれとなく本人が希望している意向を聞きだし、その人らしく暮らせるよう支援している。		センター方式勉強会時に講師を迎えての研修会の開催
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人々の昔話をされている中にこれまでの暮らしぶりが現れる、個人の考え方や生活環境は把握している。		センター方式勉強会時に講師を向かえての研修会の開催

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活リズム 食事や睡眠・排泄時間・生活習慣等の中でどのような体調の変化があるか注意しながら見守り介護に努めている。		センター方式勉強会時に講師を向かえての研修会の開催
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別に介護計画を作成してスタッフ会議で検討している。家族の要望がある場合もスタッフと検討して本人に適した介護計画を作成している。		センター方式勉強会時に講師を向かえての研修会の開催
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画が実践できたか見直し、話し合いを3ヶ月ごとにし、長期的、継続的にフォローしている。又、本人の状態に変化があった場合は現状に即した対応の計画を作成している。		センター方式勉強会時に講師を向かえての研修会の開催
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。		情報を共有しながら実践している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当社は居宅介護支援事業を行っているもので、居宅のケアマネと連携して本人や家族に最善の介護情報を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の生活安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ている。特に民生委員やボランティアの訪問には力を入れている、消防訓練は消防隊員に来ていただいて実施する場合もある。		民生委員、ボランティア、警察、消防、文化、教育機関などと協力している。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネージャーや地域外のサービス事業者と話し合い、時期を見ながら他のサービスを利用する必要がある場合支援を行っている。		必要な利用者には、看取り支援の契約書取り付けている。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	問題が発生すると予見される場合は事前に地域包括センターと協議して未然に防止できるように努めている。又、本人の意向がある場合は都度協議する。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人がかかりつけの医療機関を希望される場合は希望に添える努力をしている。通院の場合は看護師が同行し、受診の支援をしている。医療との連携を密にして、家族にも体調などの情報伝達を行っている。月一回受診。		必要な利用者には、訪問看護制度を導入している。
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者の症状に変化があり、専門医の判断が必要と思われる場合は早めに受診を行い治療を受けられるよう支援している。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	スタッフは利用者の健康状態を看護師へ報告し、日常的に健康管理を行っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、こまめに病院へ出向くことは勿論、早期退院のため、本人に負担がかからない体制をとるとともに、情報交換を図り医療機関と連携している。		医療機関、家族、ホーム側と一緒に話し合い、入居者に一番負担のかからない退院計画を作っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期を迎えた入居者の家族の要望を尊重し、かかりつけ医、スタッフで最後まで看取れるか協議したうえ、約3年生活を共にした馴染みの利用者を看取った経緯がある。		看取りについて 方針、チームにて話し合っている。無理はしない。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	チームの連携、職員の力量、諸条件を備えることを目指して、チーム支援をしていくための取り組みを話し合い、準備している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族の都合を鑑み、別の施設入所される側のケアマネージャと問題点を話しながら利用者さんの問題行動が落ち着くまで、訪問し援助している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人々の個性を尊重し、個人に適した声かけを心がけ、プライドを守ることに気をつけている。介護に必要な個人のプライバシーに関することは記録として残さない配慮をしている。		入居者一人ひとりの違いの尊重。 さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しないなど配慮する。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は入居者一人ひとりが自分で決めたり、希望を表したりすることを大切に、それらを促す取り組みを日常的に行っている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者の自由に自分のペースを保ちながら暮らせるよう支援を行っている。	○	その人らしさとわがままの境を見極める力を養う

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し 容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が行きつけの理美容院へ行くことを望む場合、可能な限り要望を満たす努力をしている。洋服は季節に合わせて家族にお気に入りを入りを家より持ってきていただき、TPOに合わせておしゃれを楽しんでいただいている。		なじみの美容室を決めている。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。また、たまにはみんなで外食を楽しんでいる。		職員も同じものを食べている。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者が自宅にいるとき同様に、可能な限り馴染みの嗜好品を楽しめるよう日常生活に取り入れて支援を行っている。		入居者に食べたい物のアンケートをとり、献立メニューに取り入れている。
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄の パターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつを出来る限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。		歩行介助者に対しては、声かけし、時間毎のトイレ誘導、介助を実施している。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの 希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴が出来るよう支援している。(時間帯、長さ、回数など)		これまでの生活習慣や希望に合わせて、夜に入浴することが可能か、職員のローテーションを工夫する等の検討をしたい。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気 持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない入居者には、一日の生活リズム作りを通じた安眠策をとっている。		昼寝を取り入れている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみ事や自分の出番を見出せるよう、場面作りなどの支援を行っている。		テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、新聞取りなど。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が安心できる額を本人の希望と力を鑑みて所持し使えるよう配慮している。		入居者の能力や希望にて、自分の財布を(小銭)管理してもらっている。雑貨店では、一人ひとり支払ってもらうよう支援している。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は入居者一人ひとりが自分で決めたり、希望を表したりすることを大切に、それらを促す取り組みを日常的に行っている。		戸外に出ることは積極的に取り組んでいる。(散歩、外気浴) 月一回は車にて外出している。(外食・ミニドライブなど)
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望がある場合は可能な場所へは外出の支援をしている。その他、花見やひな祭り等気持ちが明るくなるような行事を企画し、楽しめる場を提供している。		家族会で外出できる機会を企画してみたい
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人、知人の手紙、電話を家族にも依頼すると共に歓迎している。年賀状や暑中見舞いのハガキは楽しみながら出している		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族が気軽に訪問でき、訪問時に居心地よく過ごせるような雰囲気を出している。友人等の訪問には特に再来をお願いして見送っている。		来やすい雰囲気、歓迎、湯茶の自由利用、居室への宿泊しやすさなど。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないということを、全ての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族などにも心理的圧迫をもたらさないよう、日中玄関に鍵をかけなくてもすむよう配慮している。鳥の声のチャイム使用		やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	申し送り（報告、連絡、相談）を徹底し、入居者の状況を確認し、ケアを行っている。夜間の見回りはプライバシーに配慮しつつ安全確認を実践している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物などの注意の必要な物品については、保管場所、管理方法など明確に取り決めそのとおり実行している。		注意の必要な物品に対しては入居者の手の届かない所に保管している。
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故、ヒヤリハットの報告で危険を未然に防ぐことを心がけている。危険な状況を正確に伝えることを職員が徹底して行う。		事故がおきてしまった場合は、再発防止の方法を話し合い、今後活かす意識付けを実行している。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアル作成 救急救命法の学習を消防署より講師を招いて行ったこともある。 応急手当を看護師を講師として訓練している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練：年二回実施している。 地元住民との密接な関係を築くことに努力している。		地域の人々の協力が実際に得られる様、一緒に訓練を行う取り組みを計画したい。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	グループホームは自由が多い分リスクがある、しかし、抑制のない自由な雰囲気を楽しむホームであることは家族に理解していただいている。		家族会などの催し物に参加していただく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝・夕、バイタルチェックし早期発見に努めている。 入居者の怪我など緊急時、職員は応急手当を行うことができる。		緊急マニュアルを作成している。 怪我、骨折、発作、のど詰りなど。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者の健康状態を把握しており、内服薬及び塗り薬の効用は事前に理解している。また、医師の指示通り服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。		薬の保管場所や残量の確認を行い管理は明確に実行している。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を作成している。 排便コントロールを行っている。		水分補給 下肢筋力運動 食物繊維の多いもの使用
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き、入れ歯の手入れ、うがいなどの支援、出血や口腔内のチェックなど行っている。		毎食後の口腔ケアは徹底して支援している。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を作成し、栄養バランスに配慮し偏食にならないよう心がけ、適宜、水分補給を実行している。 入居者に食べたいアンケートなどをとり食事に取り入れている。		入居者の健康状態に配慮して献立を立てている。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成している。 感染症の流行や対応策について全職員、繰返し学ぶ機会を持っている。		予防注射 汚物保管：徹底 手指消毒：徹底 うがい敢行
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、新鮮で安全な食材を購入し、使用している。 ホーム内の清潔、衛生を保持している。		食品、包丁、布巾、まな板、食器等の消毒徹底
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの入口に、ホームのシンボルマーク(なす)を建て、外には山羊が出迎え、玄関では開閉時、さわやかな鳥の鳴き声のチャイムを設置している。		玄関は自動ドアであり、家族や利用者が出入するとき疎外感がないようオープンにしている。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気壊さない配慮で、トイレ、部屋の目印を手作りしている。 壁は季節に合わせて機能訓練を兼ねた切り絵等を雰囲気が壊れない範囲で飾っている。		テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日差しなど気を配っている。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が一人になったり、気の合った入居者同士で過ごせる居場所を入居者の気持ちになって配置を工夫している。		畳の場所、ソファなど設置している。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、生活用品、装飾品など持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は適宜行っている。 冷暖房の温度調節は冷やし過ぎや暖め過ぎない様、職員が居室に入って適切に行っている。		リモコン操作：職員管理 エアコン換気扇を定期的に掃除を行う
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床には障害物を置かないようにし、利用者に合わせて押し車や大小の車椅子での対応し、又起床時転倒、危険防止の為抑制にならないベット柵を使用している。		下肢マッサージ器使用。 ベッドより起床時、転倒、危険防止のため拘束にならないベッド柵を使用している。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の部屋入口には顔写真を貼り、風呂場にはゆのマークの暖簾をたらし又、トイレには大きな表示をしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑では野菜作り、草取りを日常生活に取り組んでいる。芝生を敷き詰めた庭には椅子、ベンチを置き気候の良い日は外気浴を楽しんでいる。 夏場は涼しいうちに近くのお宮まで散歩を楽しんでいる。		外気浴 散歩

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

月1度は施設外に出て地域とのふれあいの場を作り、また外食などして気分転換を図っている(年内行事作成)
施設内の畑にて野菜を作り、草取り、収穫の喜びを感じてもらっている。
また、山羊とのふれあい、癒しを感じてもらう。
ホームの機能を入居者のケアに配慮しつつ、地域に開放している。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	田園風景の中、四季折々の景色や、夕日を眺めながら、畑作業をする。癒しにヤギを放牧し、運営理念の[介護から快護]を目指し、ストレスの無い日常生活を送れることに取り組んでいます。	○	スタッフ全員に運営方針の理解と浸透を図る目的で理念を見やすい場所に掲示している。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝の申し送りの時に日常的に話し、共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム運営理念や役割が地域に理解されるよう、家族会・運営推進委員会や地域に対する運営理念の啓発、広報に取り組んでいる。	○	ホームの説明会 近隣の老人会 こすもだより・中学生職場体験・小学生の受け入れ・短大生実習受け入れ・夏祭り・家族会等を公開している。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域交流を大切にしているので、地域の方々が遊びに来たり、野菜をいただいたり、孫を連れてヤギを見に来たり、朝のゲートボール見学等、気軽に交流を行っている。	○	ボランティアの受け入れをさらに活発にしたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区長さんと話しあい、お互いに行事等の交流をお願いし、介護教室や敬老会等、地域活動に積極的に参加し、地元の人々と交流を密に図っている。	○	ホームの夏祭りをもっと発展させ、町内の夏祭りとして開催できるようにしたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の老人会が行っている公民館でのデイサービス等で介護保険の説明や健康体操を指導している。	○	校区全老人会に範囲を広めたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の結果に基づいて、日々のケアを上げる目的でスタッフに浸透するよう、スタッフ会議や、研修会を通じて随時改善している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や意見を大切に、介護保険の勉強会を行っている。理解のできない事項は、次回の会議の議題に取り上げ検討している。		2ヶ月毎に開催し、報告、情報交換、話し合いを通じて、率直な意見をもらい、サービス向上に努めている。当該利用者がいなくなっても介護保険の勉強会をしている家族もいる。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1度まごころ相談員を派遣してもらっている。また、地域包括センターの紹介の入居者の状況説明を含め、報告等のため随時市役所に出向いている。	○	今後認知症やスタッフの勉強会を市と連携してやっていきたい。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な利用者には市と話し合い、成年後見制度を活用している。		今後も利用者の必要に応じて活用していきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議で学び、スタッフ同士疑問点はその都度責任者に報告して、指示を仰いでいる。		虐待という言葉は、ホームでは絶対に使わない。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族には契約書や重要事項説明を開いて説明し、理解・納得してもらっている。利用者には口頭で説明をしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の派遣社員や家族が気軽に訪問できるよ う支援し、入居者が、いつでも第三者と会 話できる環境を提供している。		2ヶ月毎の運営推進会議を開催している。 3ヶ月に毎家族会を開催中
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる	毎月、こすもだよりという会報を発行する ことで生活情報を報告し、金銭管理は入金 時のサイン等随時個々に合わせた報告法で 行っている。		家族来所時声かけ、入居者の状況について 話し合っている。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口や玄関にはポスターや市の苦情窓 口の電話番号等を掲載している。		3ヶ月毎の家族会を開催している。
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	職員が提案した事柄は意見が違ったとし ても、まず責任者で検討してスタッフ会議で 取り入れることが妥当であると判断した場 合誰の意見であっても尊重する体制をとっ ている。		月二回、スタッフ会議開催。 意見交換、勉強会をしている。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	バイトや短時間勤務者を確保し柔軟に対応 している。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃より運営者はじめ職員が馴染みの関係 を築いている。又利用者毎に担当者を決め 1人の利用者に2人の担当を付けることで たとえ離職者が出て利用者のダメージは 最小限にする体制をとっている。		職員が変わるときは、利用者のなじみの職 員がスムーズに移行できるよう目配りと配 慮をしている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	あらゆる活動において、全ての基本的人権を尊重し、差別、偏見をなくすと共に、職員の多様な個性を尊重し、能力を十分に発揮できる職場環境作りに努めている。		誰もが安心して働ける職場作りをしている。
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年上を敬い、言葉使いに気をつけて誰に対しても同じスタンスで接するよう努めている。		基本的人権を尊重した、人材育成に努めている。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	G・H協会や市の勉強会等研修会の参加を積極的に取り入れて職員のスキルのレベルアップに努めている。	○	研修に参加し、研修内容を報告し、全職員が共有できるよう勉強会をしている。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リーダー研修会は毎年参加、新人研修、その他研修を通し、地域同業者との意見交換をし顔馴染みの関係を築かせ、自己啓発に努めている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互の親睦会の機会を作りストレス軽減に努めている。	○	悩みの聴取 スーパーバイザーの導入
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断を年二回実施し、心身の健康を保つようになっている。 役割分担を決め責任ある行動をする、職員の努力に対する成果を把握している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の問題行動の原因が何であるのか観察しながら、本人の話の内容で繰り返し話すことの中より推察する努力を行っている。	○	声かけ、見守りをし早く安心してもらうように努めている。 センター方式活用
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所に至るまでの本人の生活歴や、家族との関係を聴き、本人に何が必要なのか受け止めそれぞれの思いを把握する努力をしている。		家族の状況を把握することによって、情報交換を繰り返し、信頼関係を作っている。 センター方式活用
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括センターや居宅のケアマネを通しての相談が多いので他のサービスの検討は殆どの場合済んでいる。しかし、どう見ても他のサービスが向いていると判断する場合は再度ケアマネと打ち合わせをしている。		本人、家族の実情や要望をもとに、サービス調整を行い、出来ることは速やかに実行している。 センター方式活用
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症ディサービスができれば問題はないが、体験入所ができないため本人と家族が十分話し合いしたのを確認して、家族との頻度の面会をお願いしている。		最初の1ヶ月は管理者や責任者が主に対応している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	これまでの生活歴を把握し、本人の思い出に共感し、理解する関係を築き人生の中で楽しかった思い出を引き出し、共に喜ぶ努力をしている。 センター方式活用		スタッフ全員もお年寄りが生きてきた時代慣習の勉強会をする。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と密に情報交換を行って本人の状況を知らせ家族も一緒に介護を考え、支えていく環境を整えている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	夏祭り等の催し物に積極的に家族の参加を頂いており、家族が関わる場面や機会作りをしている。本人が穏やかになり、安心した生活を提供することにより、関係を深めている。		家族参加型の日帰りミニ旅行等を今後企画してみたい。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人友人が面会に来られた場合は次回の訪問を促している。また、ホーム事業に参加してもらい、本人を支えてきた人たちとの関係を保っている。 センター方式活用		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	椅子の配置やタタミの配置を考え、入居者同士の関係が和やかになるよう工夫し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わりあい、仲間作りを演出し、安心した会話ができることで不安を無くす工夫をしている。		各入居者の得意分野で力を発揮してもらい、お互い様という気持ちをレクリエーションの中に取り込んで支援している。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続できる退所者の家族とは他のホームにボランティアに行ったり、当ホームの運営推進会議に参加してもらっている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけ、見守り介護にそれとなく本人が希望している意向を聞きだし、その人らしく暮らせるよう支援している。	○	センター方式勉強会時に講師を迎えての研修会の開催
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人々の昔話をされている中にこれまでの暮らしぶりが現れる、個人の考え方や生活環境は把握している。	○	センター方式勉強会時に講師を向かえての研修会の開催

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活リズム 食事や睡眠・排泄時間・生活習慣等の中でどのような体調の変化があるか注意しながら見守り介護に努めている。	○	センター方式勉強会時に講師を向かえての研修会の開催
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別に介護計画を作成してスタッフ会議で検討している。家族の要望がある場合もスタッフと検討して本人に適した介護計画を作成している。	○	センター方式勉強会時に講師を向かえての研修会の開催
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画が実践できたか見直し、話し合いを3ヶ月ごとにし、長期的、継続的にフォローしている。又、本人の状態に変化があった場合は現状に即した対応の計画を作成している。	○	センター方式勉強会時に講師を向かえての研修会の開催
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○	情報を共有しながら実践している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当社は居宅介護支援事業を行っているもので、居宅のケアマネと連携して本人や家族に最善の介護情報を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の生活安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ている。特に民生委員やボランティアの訪問には力を入れている、消防訓練は消防隊員に来ていただいて実施する場合もある。		民生委員、ボランティア、警察、消防、文化、教育機関などと協力している。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネージャーや地域外のサービス事業者と話し合い、時期を見ながら他のサービスを利用する必要がある場合支援を行っている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	問題が発生すると予見される場合は事前に地域包括センターと協議して未然に防止できるように努めている。又、本人の意向がある場合は都度協議する。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人がかかりつけの医療機関を希望される場合は希望に添える努力をしている。通院の場合は看護師が同行し、受診の支援をしている。医療との連携を密にして、家族にも体調などの情報伝達を行っている。月一回受診。		必要な利用者には、訪問看護制度を導入している。
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者の症状に変化があり、専門医の判断が必要と思われる場合は早めに受診を行い治療を受けられるよう支援している。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	スタッフは利用者の健康状態を看護師へ報告し、日常的に健康管理を行っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、こまめに病院へ出向くことは勿論、早期退院のため、本人に負担がかからない体制をとるとともに、情報交換を図り医療機関と連携している。		医療機関、家族、ホーム側と一緒に話し合い、入居者に一番負担のかからない退院計画を作っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期を迎えた入居者の家族の要望を尊重し、かかりつけ医、スタッフで最後まで看取れるか協議したうえ、約3年生活を共にした馴染みの利用者を看取った経緯がある。		看取りについて方針、チームにて話し合っている。無理はしない。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	チームの連携、職員の力量、諸条件を備えることを目指して、チーム支援をしていくための取り組みを話し合い、準備している。		必要な利用者には、看取り支援の契約書取り付けている。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族の都合を鑑み、別の施設入所される側のケアマネージャと問題点を話しながら利用者さんの問題行動が落ち着くまで、訪問し援助している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人々の個性を尊重し、個人に適した声かけを心がけ、プライドを守ることに気をつけている。介護に必要な個人のプライバシーに関することは記録として残さない配慮をしている。		入居者一人ひとりの違いの尊重。さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しないなど配慮する。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は入居者一人ひとりが自分で決めたり、希望を表したりすることを大切に、それらを促す取り組みを日常的に行っている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者の自由に自分のペースを保ちながら暮らせるよう支援を行っている。		その人らしさとわがままの境を見極める力を養う

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し 容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が行きつけの理美容院へ行くことを望む場合、可能な限り要望を満たす努力をしている。洋服は季節に合わせて家族にお気に入りを入りを家より持ってきていただき、TPOに合わせておしゃれを楽しんでいただいている。		なじみの美容室を決めている。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。また、たまにはみんなで外食を楽しんでいる。		職員も同じものを食べている。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者が自宅にいるとき同様に、可能な限り馴染みの嗜好品を楽しめるよう日常生活に取り入れて支援を行っている。		入居者に食べたい物のアンケートをとり、献立メニューに取り入れている。家族と話し合い、嗜好品は家族に持参してもらっている。
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつを出来る限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。		歩行介助者に対しては、声かけし、時間毎のトイレ誘導、介助を実施している。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴が出来るよう支援している。(時間帯、長さ、回数など) 利用者の意向で個午後からの入浴になっている。	○	これまでの生活習慣や希望に合わせて、夜に入浴することが可能か、職員のローテーションを工夫する等の検討をしたい。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない入居者には、一日の生活リズム作りを通じた安眠策をとっている。		昼寝を取り入れている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみ事や自分の出番を見出せるよう、場面作りなどの支援を行っている。		テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、新聞取りなど。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が安心できる額を本人の希望と力を鑑みて所持し使えるよう配慮している。		入居者の能力や希望にて、自分の財布を(小銭)管理してもらっている。雑貨店では、一人ひとり支払ってもらうよう支援している。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は入居者一人ひとりが自分で決めたり、希望を表したりすることを大切に、それらを促す取り組みを日常的に行っている。		戸外に出ることは積極的に取り組んでいる。(散歩、外気浴) 月一回は車にて外出している。(外食・ミニドライブなど)
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望がある場合は可能な場所へは外出の支援をしている。その他、花見やひな祭り等気持ちが明るくなるような行事を企画し、楽しめる場を提供している。午後から2~3名一緒に1時間程ドライブに出かける。		家族会で外出できる機会を企画してみたい花の季節季節に公園に出かけ昼食を取っている。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人、知人の手紙、電話を家族にも依頼すると共に歓迎している。年賀状や暑中見舞いのハガキは楽しみながら出している		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族が気軽に訪問でき、訪問時に居心地よく過ごせるような雰囲気を出している。友人等の訪問には特に再来をお願いして見送っている。	○	来やすい雰囲気、歓迎、湯茶の自由利用、居室への宿泊しやすさなど。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないということを、全ての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族などにも心理的圧迫をもたらさないよう、日中玄関に鍵をかけなくてもすむよう配慮している。鳥の声のチャイム使用		やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	申し送り（報告、連絡、相談）を徹底し、入居者の状況を確認し、ケアを行っている。夜間の見回りはプライバシーに配慮しつつ安全確認を実践している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物などの注意の必要な物品については、保管場所、管理方法など明確に取り決めそのとおり実行している。		注意の必要な物品に対しては入居者の手の届かない所に保管している。
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故、ヒヤリハットの報告で危険を未然に防ぐことを心がけている。危険な状況を正確に伝えることを職員が徹底して行う。	○	事故がおきてしまった場合は、再発防止の方法を話し合い、今後活かす意識付けを実行している。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアル作成 救急救命法の学習を消防署より講師を招いて行ったこともある。 応急手当を看護師を講師として訓練している。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練：年二回実施している。 地元住民との密接な関係を築くことに努力している。	○	地域の人々の協力が実際に得られる様、一緒に訓練を行う取り組みを計画したい。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	グループホームは自由が多い分リスクがある、しかし、抑制のない自由な雰囲気を楽しむホームであることは家族に理解していただいている。		家族会などの催し物に参加していただく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝・夕、バイタルチェックし早期発見に努めている。 入居者の怪我等緊急時、職員は応急手当を行うことができる。		緊急マニュアルを作成している。 怪我、骨折、発作、のど詰りなど。体調の変化時は早めにかかり医に連絡を取り受診をする。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者の健康状態を把握しており、内服薬及び塗り薬の効用は事前に理解している。また、医師の指示通り服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。		薬の保管場所や残量の確認を行い管理は明確に実行している。 申し送り強化
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を作成している。 排便コントロールを行っている。		水分補給 下肢筋力運動 食物繊維の多いもの使用
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き、入れ歯の手入れ、うがいなどの支援、出血や口腔内のチェックなど行っている。		毎食後の口腔ケアは徹底して支援している。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を作成し、栄養バランスに配慮し偏食にならないよう心がけ、適宜、水分補給を実行している。 入居者に食べたいアンケートなどをとり食事に取り入れている。		入居者の健康状態に配慮して献立を立てている。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成している。 感染症の流行や対応策について全職員、繰返し学ぶ機会を持っている。		予防注射 汚物保管：徹底 手指消毒：徹底 うがい敢行
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、新鮮で安全な食材を購入し、使用している。 ホーム内の清潔、衛生を保持している。夕食後ハイターにて消毒している。		食品、包丁、布巾、まな板、食器等の消毒徹底
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの入口に、ホームのシンボルマーク(なす)を建て、外には山羊が出迎え、玄関では花を植えたりしている。		玄関は自動ドアであり、家族や利用者が出入するとき疎外感がないようオープンにしている。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気壊さない配慮で、トイレ、部屋の目印を手作りしている。 壁は季節に合わせて機能訓練を兼ねた切り絵等を雰囲気が壊れない範囲で飾っている。 季節の花を飾ったりしている。		テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日差しなど気を配っている。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が一人になったり、気の合った入居者同士で過ごせる居場所を入居者の気持ちになって配置を工夫している。		畳の場所、ソファなど設置している。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、生活用品、装飾品など持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気温を5℃以上にならないようにしている。1日数回は窓を開けて換気している。		リモコン操作：職員管理 エアコン換気扇を定期的に掃除を行う
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床には障害になる物を置かない様にしに利用者に合わせて、押し車や車いすの大きさを揃えている。別途より気象時、店頭、危険防止のため抑制にならないペット柵を使用している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の部屋には顔写真ろ部屋の入り口に貼っている。浴室には湯のマークの暖簾をたらししている。トイレには大きな文字で表示している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑では野菜作り、草取りを日常生活に取り組んでいる。芝生を敷き詰めた庭には椅子、ベンチを置き気候の良い日は外気浴やレクレーションを楽しんでいる。夏場は涼しいうちに近くのお宮まで散歩を楽しんでいる。		外気浴 散歩

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

月1度は施設外に出て地域とのふれあいの場を作り、また外食などして気分転換を図っている(年内行事作成)
施設内の畑にて野菜を作り、草取り、収穫の喜びを感じてもらっている。
また、山羊とのふれあい、癒しを感じてもらう。
ホームの機能を入居者のケアに配慮しつつ、地域に開放している。